

分野： (3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査
 ② 予防事業対象地域を含む気管支ぜん息等の有症率と動向等

(3)-②

業務委託名： 予防事業対象地域を含む気管支ぜん息等の有症率と動向等に関する検討

調査研究代表者氏名： 手塚 純一郎
 (共同実施者) 福富 友馬

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
(3) 研究計画の妥当性	1人	5人	0人	0人	0人	4.17
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						4.33
(6) 総合評価(第2評価)	3人	3人	0人	0人	0人	4.50
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						4.39

2 記述評価
<ul style="list-style-type: none"> アレルギー疾患有症率相互の関係性を見るための5年間のデータが整理できないものか。 環境因子の関連を出来るだけ各疾患ごとに検討してもらいたい。 感染症とBAとの関係をより深く分析してもらいたい。 小児領域はこれまでの伝統的なサーベイランスの延長としての位置づけと現在の喘息に関する新しい面の探索の両方についてきちんとした計画を練って次年度のまとめに繋げることが必要だと考えられる。成人領域は対象とする年齢が20～44歳という成人で中高年を含んでいない点で他の研究との比較検討には注意が必要である。例えば、プロペンシティブスコアマッチング法を採用して解析することも有用だと考えられる。 順調に進行している研究課題である。 小児領域の研究に関しては、23年度にどのような解析結果を上乗せするのか興味深い。 経年的な重要な研究を継続している。 次年度の成果が期待される。 興味ある結果が得られている。 SARS-CoV-2 感染既往と有病率との間の関連について、将来的に検討の予定があるでしょうか？ 児童および成人の調査ともに非常に貴重なデータを提示しているものとする。本事業の目的のひとつである予防事業対象地域の動向が明確になるように解析を進めていただきたい。